Ⅳ　これからの地域を支える近隣型助け合い活動
―「えん」の７年間の活動報告

おとなりさんネットワーク「えん」　田　代　久美枝

■おとなりさんネットワーク「えん」は・・・

「年を取って、一人ポッチは辛いね。仲間と一緒に、何か少しでも人の役に立つ人生を送りたいね」というメンバーの声で「えん」を作って７年になります。ご近所さんのメンバーがあつまって「安心・安全な街づくり・ずっとここで暮らし続けられる地域づくりを自分達がやろう。地域の福祉力に自分達がなろう」を目標に活動している「近隣型助け合い活動」のグループです。

2001年に12名の理事ではじめ、現在40名ほどのメンバーで、ボランティア活動・地域コーディネート活動・他団体との交流・広報活動・学習活動・火曜日の会の運営・おとなりさんショップの運営（障害者の自立支援）他をおこなっています。

■「えん」設立のきっかけは・・・

永年つきあってきたメンバーが皆50代に入り、親の介護、子どもの自立、夫のリストラ、自分達の健康に関する不安と生きがいの問題など、個人的ではありながら、社会と密接に絡んだ問題を抱えていました。それを外に出して話し合ったとき、なんだ自分だけではないのか。では皆で勉強しながら、何か行動すれば、解決にむすびつけることができるのではないかと考えたのがきっかけでした。

様々な問題を抱えながら、自分達の最終章をどのように良いものにしていったらよいのか、そのイメージがつかめないことに一層な不安を抱いていました。

最後の姿がどうありたいのか・・勿論、「最後まで誰かに必要とされる人でありたい」「自分が住んでいるここで、最後まで居場所・行く場所・座る場所が欲しい」とのぞんでいるのですが。さて、そういう希望がかなえられる社会状況があるのか心もとない。また、一番身近な私たちを取り巻く地域の状況は？どんな人がいて、どんな問題をかかえているのか？

子育て、障害者、消費者問題など、メンバーはそれぞれ（課題型の）市民活動をしている人たちでしたが、では地域の状況はどんなものかということを案外つかめていなかったのです。

活動を始めるにあたって、出てきたのが、私たちが「知らない」ということでした。

ではまず、あちこち出かけていって、お付き合いをしながら、「知ること」から始めよう。地域の何に安心出来ないのか、良い最終章をむかえるためにはどういう条件整備をしないといけないのか、「現在」をつかんで、「こうありたい未来のイメージ」と「それを実現させる具体的な取り組みは何か」をあきらかにしようと取り組んでいます。毎年の活動方針のなかに学習プログラムを大きく組むのも、少数の人だけが状況をわかるのではなく、メンバー皆が地域や社会などの周辺状況をしらなければ、問題解決に必要な行動がとれないと考えているからです。

■「火曜日の会」とは・・・

「えん」の中核の活動に火曜日の会があります。毎週火曜日に自宅を開放して開催しています。

火曜日の会は居場所づくりではじめました。手づくりの小物を作りながら、色々な話がとびかいますが、時には深刻な相談も出てきます。不思議なことに手をうごかしながらだと深刻な話もサラッとなって、メンバーのなかから、「私も経験者よ」というアドバイスが出てきます。ピュアカウンセリングです。手作りをしないで、食べる専門の人もいればおしゃべりだけを楽しんでいる人もいます。

「えん」の意味をよく聞かれますが、ご縁（仲間やネットワーク）、円（お金、活動資金作り、メンバーへの活動費還元）、終焉（死ぬまでということ）など色々考えられますが、今、一番大事にしているのは「宴会」のエンです。共に食べることはとても大事です。勿論、食べるだけで７年が過ごせたわけではありません。メンバーにはいろんな経歴の人がいますので、（近頃は男性メンバーも増え、幅広い意見が聞けます）情報交換が行なわれたり、目からウロコの勉強会ができたりと付録が沢山です。今年は皆で認知症について学んでいます。

火曜日のメンバーは特養「春吉園」のお洗濯ボランティアや「えん」が開催している障害者支援「おとなりさんショップ」のボランティアでもあります。実践の場をもっているせいか、学習することにとても意欲的です。しかし、障害者自立支援法の影響でおとなりさんショップの開催がむつかしくなるなどの問題にも遭遇しています。

火曜日の会に関心をもって見学にこられる方が多く、ほんとにこういう場が必要だと思われるようですが、なかなか自分で始めるというところまではいきません。近所付き合いの煩わしさや面倒なという垣根を超えるのが難しいのでしょう。それと運営を支えるのに必要な仲間数人を見つけられないという問題もあるようです。

また、うつ症状の方や認知症の初期の方や家族のかたから行きたいのだけどという要望をうけることもありますが、やはり場所が遠いと継続が難しく、近くにあればという声を聞きます。（多くのかたがデイサービスなどではなく、「普通」の集りのなかにはいることを望まれます）　認知症もうつも閉じこもりを防げば、ある程度悪化を防ぐことができるので、私たちとしても残念な思いです。

■「えん」のこれからの課題・・・

「えん」をつくって７年、社会の状況は益々不安の度合いを深めてきました。

介護保健が施行されて、私たちの老後はこれで大丈夫と喜んだのもつかのま、選択できる老後はまだ遠い夢です。介護、年金、医療といった社会保証制度の穴がますます大きくなっています。その上に格差社会や若い人たちの労働形態の問題も非常に重い課題となっています。

７年前に調査活動をした時から感じていた各世代共通のコミュニケーション障害は相変わらず解消の糸口が見えず、「誰かがやってくれる」という人まかせや「私には関係ないわ」という無関心がまだまだ幅を利かせています。私達のくらしに浸透している「個人主義」という生活文化を変える難しい作業が残っているのです。

しかし、私たちの地域でも近頃なんとかしなければという「風」を感じます。

ピンチはチャンスでもあるのです。経験をかさねてきた「えん」のメンバーは自分達で何とかできるのではないかという自信をもち始めています。

「えん」の活動を通じて出合った多くの方たちから学んだこと、体験したことを、町内の役員をする時に活かしていくということは有効な手段です。少しづつですが積みかさなれば地域を動

かす力になるでしょう。時間はかかりますが。

私たちは、自立を強制されるのではなく、自ら自立し、自分達で納得できる社会を作る努力をしたいと考えています。

制度づくりで言えば（問題は色々あるにしても）校区単位の市民センターづくりまで出来ました。後は自らの努力による足元の活性化です。こうありたい地域をつくるために手も口も出していきたいと思います。